

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム あやめ 2階		
所在地	〒020-0826 盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	令和4年11月9日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの人となりをご家族からのお話や、日々の生活の中で探り、知れた情報を職員間で共有する事で、個々人に合った対応を心掛けている。体調面では変化に即座に気付ける様、日常の様子を把握し都度主治医への相談や受診対応など行っている。食生活にも留意し、季節の食材や旬の物を取り入れ時節の変化を感じて頂くと共に栄養面でも不足の無いように取り組んでいる。
感染予防にも力を入れており、ホーム内の換気を適切に行い、定時の館内清掃、職員・入居者共に毎日の体温測定や飲食前のハンドジェルでの消毒、マウスウオッシュでのうがい、手洗いを行っている。
また、新型コロナの為に外部との交流は減少しているが、花見ドライブやホームの敷地に出での食事会、紅葉見物ドライブなどの他、季節に合わせたクラフト作業などを通して入居者に季節の流れを感じていただけるよう取り組んでいる。個々を尊重しアットホームなグループホームと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の南大橋に近い河南地区に位置し、住宅とアパートが密集する住宅街にある1階と2階の2ユニットの事業所である。法人が運営するグループホームが盛岡市内に5カ所あることから、コロナ禍で職員が出勤できなくなった際には、事業所間で職員の応援体制をとることが出来ていた。職員は、「いつもあなたのそばにいて、心の声を聞いています」という事業所の理念を日々のサービス提供場面に反映するよう意識し、利用者一人一人の気持ちや思いを掴んで、日々の暮らしを支えている。コロナ禍で行動が制限せざるを得ない中、利用者の身体機能や身体能力の維持・向上を図るためホーム内での踏み台昇降やカラオケ体操を行なっているほか、積極的に近隣の散歩や季節を肌で感じられる花見や紅葉狩りなどのミニドライブを実施し、生活に潤いと安らぎが得られるよう努めている。清掃事業を展開する法人のノウハウを活かした行き届いた清掃により、快適に暮らせるよう環境整備に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示いつでも確認できるようにしている。ミーティングの際に確認したり日々の中でも表情や仕草からも気持ちを汲み取るようにしている。	廊下に掲示した理念を常に意識して、日常の会話、表情、態度などから「利用者の心の声を聞く」ようにし、日々の生活を支援している。ミーティングの場でも、理念の実践を確認しながら理念の共有を図っている。また、4半期ごとにユニットの目標を職員の話し合いで定め(例えば、「1日に1回は外に出ましよう」などのように難しくなく、具体的なもの)、利用者も職員も張り合いのある生活を送れるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて交流の輪を広げていたが、コロナウィルスで直接のふれあいが減少している。感染状況に応じて増やしていきたい。	事業所として町内会に加入しているほか、地域に居住している職員が町内会の会員として事業所との懸け橋の役割を果たしている。現在は、コロナ禍により地域の夏祭りや避難訓練などは行われていないが、近隣の方から野菜などの差し入れをいただくことがある。	コロナ禍で地域との交流の機会がなくなっていますが、事業所の近況や認知症の相談情報などのお知らせを町内会の回覧板に挟んでもらうなどして、地域との繋がりが保てるよう取り組んでいくことを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会の中で話題にすることで委員への情報提供をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催に合わせ活動状況を報告している。ほとんど書面開催となっているが、返信によりご意見を頂いている。	会議メンバーには、地域代表が複数入っているほか、利用者代表、家族代表なども入っている。現在はコロナ禍により書面開催となっているが、意見をもらえるよう返信用封筒を同封し、委員からは質問や感想などを添えて返信してくれている。前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を作成し、会議に一般の職員も参加できるよう工夫することとしていたが、書面会議が続いているため会議録を職員に回覧し、委員からの意見等を職員も共有し、日々の支援に活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設時から適宜情報提供や指導を受けている。介護認定や生活保護受給者の受け入れ等やコロナウィルス関連について担当者と連絡を取り合い支援している。	日常の情報の連絡や報告はメールでのやり取りが中心であるが、事故報告など必要に応じて直接出向き、担当者と話し合うこともあり、顔の見える関係を意識し、円滑な連携ができるようにしている。コロナ禍の関係で保健所からの指導・助言、オキシメーター貸与などの協力を得ている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設立し2ヶ月に1度個別に検討、身体的・言葉の虐待にならないよう話し合いながら実践している。年2回以上の勉強会を行ない、理解を深め職員の意識を拘束しないケアに向けている。	「事業所として身体拘束はしない」との方針を定め、身体拘束廃止委員会を隔月に開催し、身体拘束や言葉の遮りがないか振り返っている。また、所長が作成した質問形式の課題について、職員一人一人が考え、調べて、回答を提出し、その後話し合うという形の勉強会を年2回以上実施している。鍵かけモデル地区のため日中も玄関の外鍵は施錠しているが、コロナ禍による制約がないときは、外に出ようとする利用者には職員が一緒について出ていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で理解を深め、職員同士で声を掛けあえる環境作りに努めている。虐待に至る前に防止できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が数名おり担当者が連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に際にはできるだけご本人にも見学して頂いている。契約の際には十分に説明をし納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望方法や聞き入れ先などは重要事項説明書に記載しており、契約時に説明し活用している。また、面会時・電話等で普段の様子を伝えと共に要望を伺うようにしている。意見・要望は聞き入れ反映させている。	家族が面会に来たときや電話で話すときに意見や要望を聞くようにしている。家族からの要望には、「寒い季節になったので衣類を調整してほしい」「足りない衣類は購入してほしい」「本人の好きな菓子を持参したので食べさせてほしい」など生活に密着したものが多く、その都度応えている。また、前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を作成し、利用者個々の生活状況を家族に定期的に伝える目標を立て、本人の写真をできるだけ多く載せ、居室担当者が本人の様子を記載した利用者ごとの「〇〇様便り」を年2回作成し、家族とのコミュニケーションの一層の充実に努めている。	

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に限らず普段からコミュニケーションを取り意見や考えを聞き取るようにしている。申し送りノートを活用している。各係の活動については職員がアイデアを出し合い話し合いながら進めるようにしている。	管理者は、日々の業務を行なう中で職員の意見や提案を聞いているほか、毎日の申し送り時に話してもらったり、申し送りノートにも記載してもらっている。利用者の支援に関する提案については、職員みんなで話し合い、支援方法の見直しや検討を日常的に行なっている。職員は行事係、広報係、環境整備係などの係に所属し、係の企画に意見やアイデアを出し合って活動している。また、管理者は職員とのコミュニケーションが取りやすい事業所運営に留意し、職員の勤務についての要望も反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに担当を持つことにより役割と責任を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニット会議の際に勉強会を取り入れたり、経験や技術に合った研修に参加できるように配慮し、職員の技術・知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加したり同系列のGHに意見を聞くなどして自分たちの介護に活かせるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を読み、入居後も話を伺ったり、また、本人がうまく伝えられない事もあるので色々な場面での反応や気持ちを察しながら職員間で情報共有・話し合いをし、安心して生活して頂けるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み段階から話をよく聞くように努めている。面会に来られた際も会話をして話しやすい環境を作るように努めている。入居されてからも様子を報告し、お互いの情報を交換し素早い対応に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言動・表情をよく観察し職員間で話し合いを行いより良いサービスを提供できるように努めている。必要があれば他サービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事をして頂きながら共同生活を楽しんでいただけるよう配慮している。食事の後片付け・創作活動等出来る事をして頂き、介助しすぎない様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍に付き行事参加は自粛して頂いているが、敬老会時に各ご家族よりお母様に向けた、メッセージを頂き喜ばれた。面会時には3密の回避を行いガラス越しで元気な様子を見て談話されている。日々の生活状況を知らせるなどして今の状態を把握してもらう様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況に応じて家族や友人の面会を行い、園庭の散策や、行事による外出ドライブで馴染みの風景を楽しんでもらった。広報や個人便りを発行しご家族に園での様子をお伝えした。	コロナ禍のため直接の面会はできていないが、工夫を凝らして馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。玄関でガラス越しや距離を置いての面会を行っており、家族と一緒に知人が訪ねて来たときには、利用者も知人も笑顔を見せている。敬老会では、コロナ禍で家族は参加できないので、家族からメッセージをもらいカードを作成して利用者に渡し、喜んでもらっている。入居後、毎月訪問してくる美容師が新たな馴染みになり、会話を交わすことも見られる。利用者一人一人の様子を伝える「○○様便り」を作成し、コロナ禍で面会が自由にできない家族に安心してもらえるようにしている。また、ミニドライブに出かけた際には、利用者の生家や馴染みの街並みもコースに入れて通るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ができるレクを提供したり、利用者同士が互いに助け合えるよう会話の橋渡しや場面作りを行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族やケアマネに様子を伺う等しながら関係が途切れない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら思いや感じていることなどを聞き取れるように努めている。	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや意向を把握している。言葉で思いを伝えることができる利用者が少なくなっているため、職員の働きかけに対する反応を見て判断したり、「窓の外を頻繁に見ているので、外に出たいのではないか」というように、本人の表情や動きからも思いを汲み取り、申し送り帳に記入して職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を活かし、利用者が過ごしやすい環境で生活出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で変化に気を付け表情・言動・行動からも思いや気持ちを感じ取るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動・仕草・会話などを記録に残し、記録を基に担当者がモニタリングを作成しケアプランを作成している。本人や家族の要望も取り入れる様にしている。途中、変化があった時にはご家族に都度確認を取って、了承を得た上で対応をしている。	居室担当者が利用者個々の毎日の状況を記録し、この記録を基に計画作成担当者が項目別に整理してモニタリングを行い、毎月のユニット会議で話し合っている。家族の意見や要望も踏まえ、原則3ヵ月ごとに介護計画の見直しを行っている。利用者の体調の変化等に応じた随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の言動・仕草・会話などを記録に残し、申し送りノートなども活用しながら情報共有や介護計画の見直しを行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々職員間で意見交換しながら一人一人に今何が必要かを考え、事業所のみにとどまらない柔軟な支援を行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方に利用者が普段どのように過ごしているか情報を提供したり、施設でどのようなイベントを行っているかを報告する事で現状を知って頂いている。家族に了承を頂き、事前に警察に情報提供し安全に生活出来るよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き家族と協力しながら受診支援をしている。家族が受診をする際は日々の状況をお伝えしている。突発的な対応が必要な時には家族に報告の上、かかりつけ医にアドバイスを頂きながら相応な医療機関を受診している。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者のほか、事業所の協力医に変更した利用者もいる。入居前からのかかりつけ医への受診時同行は家族が行なっているが、事業所から身体状況の情報を伝えるとともに、受診結果を確認して記録に残し、共有している。協力医の訪問診療は月1回行なわれており、専門の科以外は、その場で医療機関の紹介をもらい、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問診療時に様子や気付きを伝えている。突発的な対応が必要な時には家族に報告の上、かかりつけ医にアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や退院時の連携のみではなく、入院時の洗濯などを行っている。家族に状況を伺うなどして現状把握に努めている。病院の看護師・相談員と相談しながら早期退院に向けて取り組んでいる。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針は説明しているが現段階では医療連携などの整備が整っていない事を説明し理解を頂いている。入居者の状態の変化があるごとに家族・主治医と相談しながら取り組んでいる。	現段階では医療連携体制が整っていないことから、終末期の支援に限界があることを入居時に説明し、同意を得ている。利用者に状態の変化があるときは、家族、主治医と相談しながら、介護老人福祉施設に移る場合や入院という形になる利用者もいる。終末期に向け訪問看護を入れたこともあったが、現在は訪問看護は入っておらず、看取りも行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時に時間を取って勉強したり、緊急時に備えて応急手当講習を受講しいつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち会いでの避難訓練をしている。水害時速やかに避難できるように避難時の荷物も準備している。職員、利用者で実際に避難時の荷物を持ち避難経路通りに訓練を行った。	火災を想定した避難訓練を年2回行なっているほか、地震や水害を想定した訓練も行なっている。夜間想定での避難訓練では、停電によりエレベーターが使えず、階段も暗く移動が大変なことなどの課題が浮き彫りになっている。水害想定での訓練では、少ない職員で避難場所に移動する大変さが明確になり、早めの避難が必要であることを確認している。水害時には、備蓄物品を2階に上げることなどを再確認している。自家発電装置が整備されていて、毎月試運転をしている。	夜間の火災等の場合は、勤務職員のみでの対応が困難なことから、運営推進会議で話し合っ、地域の協力体制の構築に向けた検討に取り組むことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けを心掛けている。声がけがきつくなってしまう時はお互いに声を掛け合っている。呼び捨てや「ちゃん」付けで呼んだりする事の無いように気を付けている。	利用者の尊厳を大切に、誇りを損なわないような言葉かけや対応に配慮している。トイレ誘導を行なう際にもストレートな声がけは避け、言葉を選ぶなどして、誰が聞いても違和感のない支援に努めている。居室に入るときはノックを励行し、プライバシーの確保に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今の状況を説明しどのようにしたいかを伺っている。耳の遠い方には筆談する等状況をお伝えし、選ぶ機会を損なわないようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるよう希望に沿って支援している。入浴などは行事やその日の都合で職員に合わせてもらう事もあるが生活のペースを考慮し工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたものを着ていないか、季節に合った物を着ているか等配慮しているが、利用者が何度も着替えたり、着足したりして出来ない事もある。毎日手足の爪のケアをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や片付けなど、一人一人の出来る事を手伝って頂いている。食欲が増すような盛り付けにするよう配慮している。旬の食材を頂いた時など季節を味わって頂いている。	メニューは本社で作成しているが、事業所の事情に応じて変更を行なうこともある。時には新鮮な刺身を提供し、利用者と職員は同じ食卓を囲んで和やかに食事をとっている。生ものを食べない人には加熱するなど、利用者の趣向を把握して対応している。何人かの利用者は、調理のほか食器洗いや拭き方に参加している。また、誕生会には手作りケーキを作ったり、敬老会や大晦日には寿司屋に外注しているほか、普段も彩りのある盛り付けや陶磁器の食器を用いて、食事を楽しくするための工夫を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて主食量を決め食事形態にも気を付けている。夜間の水分摂取にも力を入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。一人一人の状況によって介助している。義歯使用の方は夜間洗浄液に浸け置きしている。定期的に訪問歯科を利用し口腔内の保持につとめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排尿間隔に合わせて声掛けをしている。場所の分からない方、トイレ内で転倒リスクのある方・一人で排泄できない方等、一人一人支援している。	可能な限りトイレで排泄する支援に努めており、現在一人で排泄可能な利用者も多い。また、排泄チェック表で利用者の排泄時間を把握し、タイミングを見て声掛け誘導することにより、トイレで排泄可能な利用者もいる。自分で排泄ができない場合や排泄時に失敗した場合には、羞恥心に配慮しながら、さりげなく、速やかに対応している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便の有無を確認している。根菜類や野菜を取り入れた食事やヤクルト・ヨーグルト・牛乳なども提供している。水分摂取や歩行運動にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の概念がある利用者には希望時間を伺っている。脱衣所・浴室内の気温、お湯の温度・明るさに留意し、快適な時間を過ごして頂くよう心掛けている。拒否のある方には時間や日にちをずらしたり、声掛けやタイミングを工夫している。無理強いとにならない様に工夫している。	基本的には、3日に1回、午後の入浴となっている。1人で入浴できる利用者はおらず、昼食後に職員がついて入浴している。入浴を拒否する利用者には、時間を置いたり、場面を変えて誘導している。どうしても入りたくない利用者には、日を替えて入浴してもらい、清潔の保持に努めている。また、入浴時には懐かしい歌などを流したりして、楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神が安定した状態で入眠できるよう声掛けをしている。寝具・パジャマを調整して気温の変化に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下決められた用法・用量を守って服薬している。お薬説明書で副作用を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなテレビ番組を見たり手作業、習字、カラオケを活用して楽しんでもらっている。プランターに野菜作りをし、剪定や水やり、収穫をして新鮮野菜を食して楽しんだ。得意分野で活躍してもらい達成感を味わってもらった。季節ごとの行事を企画し参加した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自らの外出希望は少なく把握は難しいが、天気の良い日はなるべく外に出る様にしている。加えてお花見ドライブや・紅葉ドライブなどで季節の移り変わりを全員に感じて頂いた。	現在コロナ禍で日常的な外出は控えているが、天気の良い日には、園庭に出て、椅子に座って日光浴をしたり、プランターの花や野菜の水やりをしたり、少人数で近隣を散歩したりして、できるだけ外気に触れるようにしている。また、市内にミニドライブに出かけて気分転換をするとともに、季節の変化を感じ取れるよう紅葉狩りのドライブに出かけたりしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしていない。必要な物がある時にはご家族に用意してもらったり、職員が代わりに購入している。理解できる利用者には、都度報告して共有している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に届く家族からの手紙やご近所さんからの電話で会話を楽しんだりしている。一人の利用者は毎日家族へ電話をかけており、その支援をしている。年末には家族に向けて年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを工夫している。音や匂い・明るさ・風などについて配慮し過度な刺激とならないように配慮している。整理整頓や清掃に気を付け住みやすいよう工夫している。行事の際の写真を掲示し季節をその時のみならず感じて頂いている。	共用空間は、温度、湿度などのほか、行き届いた清掃により快適に暮らせるよう環境が整備されている。季節の花が飾られたり、テレビをゆっくり見ることができるようになっているほか、利用者が一人一人の得意技に応じて分担して(ハサミ遣いの得意な人は線に沿って切る、折り紙の得意な人は折り紙を作るなど)共同で作った大きな作品が壁に飾られている。また、ホールの一角に踏み台昇降や軽運動するスペースも確保されており、筋力の低下防止に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間に腰掛ける事が出来、気の合う仲間と談笑することが出来る。普段多くの時間いる食席は利用者同士気の合う方・テレビ鑑賞しやすい席順などに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの写真やぬいぐるみ・ソファなどを置き寛いで過ごせる空間となっている。	居室の入り口には、利用者の名前と写真が貼られ、表札代わりの役割を果たし、自分の居室であることがわかるようになっている。居室には、電動ベッド、クローゼット、チェストが備え付けられていて、暖房はパネルヒーターで、冷房は廊下からの冷気となっている。利用者は、使い慣れた布団、テレビ、家族の写真、位牌などを持ち込み、居心地の良い居室としている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには転倒を防ぐため障害物は置かない。トイレの表示や居室に名前表示・写真等一人一人の能力を活かし行きたい場所へ行けるよう支援している。		